



# 子育てフォーラム青木2015

～自尊感情を高め、自己肯定感を家庭・学校で育てるには～

保小中一貫教育委員会事務局 林 理恵（中学校教頭）

1月28日(土)、文化会館を会場に「子育てフォーラム青木2015」が開催されました。今年度は110名以上の大勢の皆さんにご参加いただき、充実したフォーラムになりました。青木村の教育目標に「社会力」の育成を掲げ、学校・地域・家庭、村全体が力を合わせて取り組んで12年目。今回のフォーラムでは「自尊感情を高め、自己肯定感を家庭、学校で育てるには？」をテーマに、あおきっ子の子育てについて村民の皆さんと共に考えました。

フォーラム委員会では、保小中の保護者の皆様から「子育てエピソード」を募集し、文化会館ホールに掲示しました。一つ一つのエピソードから伝わる保護者の皆さんの子どもへの温かな思い。ホールにはプラスの言葉がいっぱいに溢れています。まだ、掲示されていますので、是非、お読みいただけたらと思います。

開会式では、アンケート委員会による報告がありました。今年度のテーマを受けて、「家庭内が明るい雰囲気であるか」「親子がよく話しているのか」「子どもを褒めているか」「兄弟姉妹や友人と比べていないか」等の項目で保小中の保護者及び小中の児童生徒からアンケートを取り、集約した結果を客観的に発表していただきました。質問項目の中には、保護者と子どもの認識の開きがあるものもあり、保護者としては「気をつけている」「褒めている」つもりでも、子どもたちには同様に伝わっていない実態も見えてきました。より自己肯定感を育てるために心がけていきたいことを提案していただきました。PTA副会長さん、保育園の先生方の柔らかな口調が、温かな子育てを表しているように感じられました。

各分科会では、「参加型」を共通テーマとし、それぞれの委員会の取組や提案を発表していただきました。当日参加した皆さんと一緒に各委員会の課題について考え合うことができました。詳しくは各委員会からの報告をお読みください。



アトラクションでは今年度は中学生も加わり、一段と賑やかなひとときを過ごすことができました。小学校からは金管バン

ドによる「ボンジョヴィ・ロック・ミックス」。ビートの効いたリズムに会場からの手拍子も合わせり元気よく演奏していただきました。続いて中学2年生のみなさんによる合唱。学年全体で取り組んできた「地球聖歌」「島唄」を披露していただきました。多くの子どもたちの姿があることで、より一層フォーラムが盛り上がりました。休日に参加してくれた小中学生の皆さん、ありがとうございました。

そして、箕輪町立箕輪中部小学校、岡田誠校長先生をお招きし「子どもの自己肯定感を高めるために」を演題にご講演いただきました。岡田校長先生からは「グレードアップ・プラン」を中心に、どのように子どもに接し声かけをしていったらよいか具体的に教えていただきました。

参加者のみなさんの感想を、一部ですが紹介します。

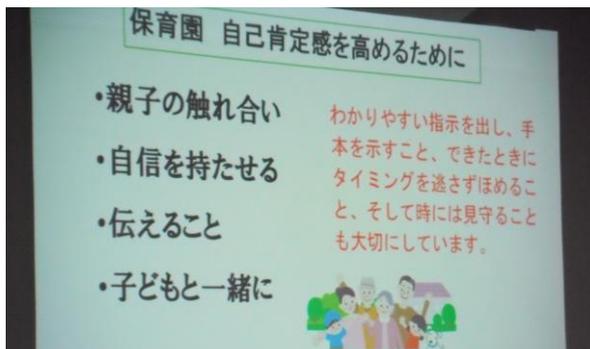
- とても質の高いアンケートでした。子どもと保護者で同じ問いにもかかわらず、結果が違っているなどとても興味深いものでした。(地域の方)
- 今、話題になっている自己肯定感を高めることへのアドバイスをいただき、ありがとうございました。「勇気づけ」の言葉をかけてあげたいと思います。今日、参加して本当によかったと思います。(地域の方)
- 託児など細かい配慮、ありがとうございました。(保護者)
- あおきっ子教育ポイント5か条の改訂について、ここまでの積み上げ大変ご苦労様でした。また、今の教育ポイント5か条について、浸透している、愛されている、支持されているお話が聞け、うれしく思いました。(第1分科会・保護者)
- 子どもの体力には日々疑問をもっていたので、小中連携して取り組んでいただき、とてもありがたいです。(第2分科会・保護者)
- 和気あいあいと話しやすい会場でした。褒め方の大切さ、声かけの仕方、今後少しでも心に留めながら子育てにつなげていけたらいいと思いました。(第3分科会・保護者)
- 子どもへの関わり方、ちょっとした工夫や接し方で気持ちも変わるものだとよくわかりました。楽しい分科会でした。ありがとうございました。(第4分科会・保護者)
- 講演会、すばらしいです。青木はもっと本気になれると思います。(保護者)
- 子育てに悩む毎日ですが、先生の講演を聞いて、私(親)が勇気づけられました。私も褒めてもらえるように、子育てを楽しみながらがんばりたいと思います。(保護者)
- 土曜日午前中の開催でしたが、参加してくれる方々も多く子どもたちも安心して見てもらえたので、よかったと思います。(保護者)
- すばらしいお話で、もっとたくさんの方にも聞いていただきたい話でした。(保護者)
- 親としてでなく、人として自ら言えるようにしてあげたいと考えさせられた。言い慣れない言葉を言うと、互いに照れてしまうが、やらなければいけませんね。「ありがとう」「助かったよ」「うれしいよ」。(保護者)
- 1階に掲示されている保護者エピソードは小中学校にも掲示したらどうでしょうか。子どもたちにも見てもらいたいメッセージがたくさんありました。テーマもよかったと思います。(教職員)
- 広い会場の一角でこぢんまりとした空間で会が進められてよかったです。参加者の方に「みんな同じ悩みを抱えているんだな」と肩の荷が下りる場になればよかったと思ったのですが、どうだったのか反省です。もっとたくさん語り合えたらよかったと思います。(教職員)

# アンケート委員会発表

## (保小中一貫教育アンケート委員会)

今年度は「自尊感情を高める」「自己肯定感の育成」を目的に9月にアンケート調査を行いました(青木村の保小中の保護者及び小中学生対象)。その結果の中から主なものの報告がありました。

- ・「家族で笑い合うことがありますか？」の質問には、保護者の回答ではほとんどの家庭で「よくある」「たまにある」と答えていて、明るい家庭が多いことがわかります。しかし小学生の回答では「ない」が若干あり、親と子どもの認識に少し差があります。
- ・「子どもが話しかけてきた時、その場で聞きますか？」には、保小の保護者の6割が「後で聞く」と答えているのに対し、中学の保護者は7割が「その場で聞く」と答えています。しかし中学生の「その場で聞いてくれる」の回答は4割に留まっており、親と子では感じ方が違うようです。また、小中ともに「話を聞いてくれない」と答える子どもが1割ありました。
- ・「子どもの良い点を見つけて褒めるようにしていますか？」には、保育園の保護者の64%が「よく褒める」と答えているのに対し、小中の保護者は半数でした。小中学生の回答では「よく褒めてくれる」が約35%と親が考えているより少なく、「褒めてくれない」が約10%と親が考えているよりも多くなっています。
- ・「褒めたり叱ったりする時に兄弟や友達と比べていますか？」には、小中の保護者は「比べない」が4割、「たまに比べる」が6割となっていますが、小中学生の回答では「比べられていない」が4割と同じなのに対し、「たまに比べられている」が4割、「よく比べられている」が2割に上っています。気をつけたい点です。



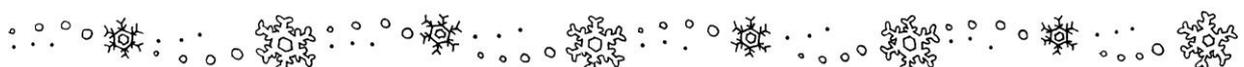
小中学生に聞いた自分自身についてのアンケートの結果も報告されました。

- ・「自分はまわりから好かれているか」の質問には、小学生の6割と中学生の7割が「そう思う」「まあそう思う」と答えています。
- ・「けんかしないで仲良く協力して過ごすことができるか」には中学生の96%が「できている」

「まあできている」(小学生は84%)と答えています。(参：2011年に発表された『高校生の心と体の健康に関する調査』では64%)

- ・「努力すれば大体のことはできると思うか」には中学生の77%が「そう思う」「まあそう思う」(小学生は87%)と答えています。(参：前出の調査では44%)
- ・「つらいことがあっても乗り越えることができるか」は、中学生の91%(小学生は82%)が肯定的に答えています。(参：前出の調査では60%)
- ・「自分の希望はいつか叶うと思うか」は中学生の76%(小学生は81%)が肯定的に回答しています。(参：前出の調査では56%)

続いて青木村の保小中のそれぞれの特徴についての発表がありました。(略)



## 1 内容

「新 あおきっ子教育ポイント5か条を作ろう！！」のテーマのもと、新5か条作成に向けて  
 参会者より意見をいただきました。今後の参考にさせていただきます。

## 2 いただいた主な意見

## 賛成意見(青)

- 1条「早寝・早起き・朝ご飯 元気に歩いて学校へ」歩くのはとても大切、もっと保護者に意識してほしい。
- 2条は「誰と」するかが明確になってとてもわかりやすいと感じました。
- 3条「自らこつこつ家庭で学習」大賛成。子どもの学力は学校で習い、家庭で練習することが大事だと思う。家庭でやらないのに塾へいっても何の意味もない。お金の無駄遣い(親の安心代)。



- 携帯電話という言葉から変えた、「スマホは高校生になってから」に大賛成です。何もしなければ時代に飲み込まれてしまう。村としての方針を大きく出してもらおうと親も動きやすい。「持っていないのは私だけ」という子どもの言葉に負けないでいられる。
- 5条に追加された「豊かな体験」の文言はとても大切なことだと感じました。
- 一日のスタート、あいさつ、時間の使い方、働き学ぶ、豊かな体験の項目はとても理解しやす

くわかりやすい。

- 現5か条に比べるとインパクトがなくなったが柔らかい感じになったと思う。
- 「親子と一緒にお手伝い」は良いことだと思う(現在あまりないので)。

## 改善点(黄)

- 「歩けば体力のある子に」の表現はもう少し違う表現はいかがですか？
- 近所→地域の言葉を残すべき(青木村の地域という言葉)。
- 「挨拶は魔法の言葉」は残してほしい。
- 特に2条、3条は現5か条の方がわかりやすい。
- 2条「おはようから始まる社会性」→わかりにくい。
- 3条「スマホは高校生になってから」は必要ないと思う。持つことが前提となるような表現になっている。高校生になったら自由に使用できるというふうに捉えられてしまっては困る。
- 3条「高校生になったらOK」にとられる!! スマホは高校生になってからの文章はいらぬ。
- メディアのルールは現在の方がわかりやすい。
- 時間の設定をわかりやすく。(現5か条の方パッと見てわかりやすい。見やすさ、わかりやすさ



を適切に表現してほしい。)

- テレビ・ゲーム・ネット 1日 90分以内、小学生は多いと思う。
- ノーメディアデーは残すべき。
- 4条について 読書とお手伝いを同じポイントにするのは分かりづらいように感じます。
- 5条の内容が? その環境に整えてもらえるのか? 例えばスポ少や部の種類を増やすなど?
- イラストはカラーに出来なかったでしょうか? わかりやすくていいイラストだと思うので色があればさらに良くなると思います。(イラスト 四角の白抜き強すぎる)
- ゲームやスマホなど長時間やると20代~老眼になることも話題になっている。週に1日見ないやらないの部分は削らないで残して挑戦させる。
- 「親子の対話がなにより大切」とあるので各条に「親子で~」とか、「声かけ」みたいな言葉が入るといいかな~
- カラフルで楽しくなっているけど色覚に特性がある子ども、お家の方にも配慮した方がよい。インクルーシブ的な発想の中の合理的配慮にあたると思います。

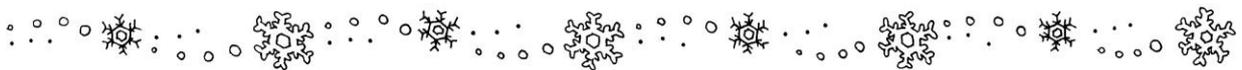
#### 否定的意見

- 現5か条から変更する理由が明確ではない。
- 現実の生活と離れている目標でも(週に1回見ない・やらない...) 条文として残して、挑戦させることが必要。そうでないと生活がどんどん流されていくような気がする。
- 目標なのでハードルは高く(あたりさわりなくする必要はないのでは!!)
- 現案で十分 あとは家庭での取組をさらに浸透させていくことを考えた方がよい。
- 基本的に5か条を変えることを反対します。部分修正で十分。
- 現5か条は子育ての基本、青木の財産です。時間を掛けて部分修正をしていくべき。
- つくって4~5年で何の結果も出ていないのになぜ今変えるのか?
- スポーツ少年団や部活動を一生懸命やると、90分以上家庭学習をして読書もして、早寝・早起き朝ご飯は年間を通しては無理。



### 3 今後の方向

5か条委員会では、この分科会でいただいたご意見と、保・小・中全家庭に配布したアンケート結果を基にしながら、新5か条の作成に向けて取り組んで参りたいと思います。



#### 第2分科会

### 「小中連携の様子とあおきっ子の体力」

(小中連携委員会)

#### 1 小中連携の様子(主として6年生の中学校への橋渡しとして)

(1) 中学校職員が小学校の理科の授業を行う。(週2時間)

「触れて」「感じて」「確かめて」を大切にして授業を行っている。子どもたちも「実験・

観察があっておもしろい」「毎週楽しみ」という感想を持っている。

#### (2) 中学校の文化祭（こまゆみ祭）の見学

中学生が自分たちで会を進行している様子、作品などを見て「中学生はすごい」「中学に進学するのがとても楽しみ」など、中学校生活への希望、あこがれを抱いている。

#### (3) 中学校職員による体育の授業（マット運動）

「苦手なので不安だったけど、実際にやって見せてくれたので分かりやすかった」という感想。体育を入り口として、他の教科も楽しみにしている様子である。



#### (4) 中学校での清掃体験

「小学校でやっている清掃とは全然違った。無言で隅から隅までそうきんがけをし、時間がたつのが早かった。

小学校でも中学でやったような掃除をしたい。」等の感想があった。

これらの活動から、6年生の期待（中学生になるのがとても楽しみ、早く行きたい）、あこがれ（あんな中学生になりたい）の高まりが感じられる。

## 2 あおきっ子の体力テストの分析と課題克服に向けた取り組みの紹介

あおきっ子の体力は全国平均をやや下回っている。（H27）

中学校では、全学年ともシャトルラン（持久力）、反復横跳び（敏捷性）、2年ハンドボール投げ（投力）、3年女子の上体そらし（筋力、筋持久力）が特に弱い。今年度、体育の準備運動を改訂して（青中ウォームアップ）、足りないものを補っていかうとしている。

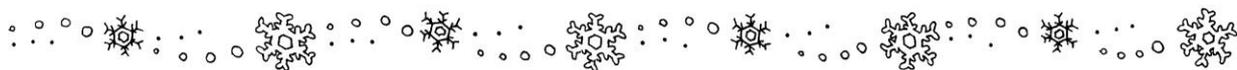
小学校では、運動に親しみ、楽しく運動することで運動するのが好きな子どもにしていくことを目指している。そのために、①体育においては、重点指導事項を決めだしてカリキュラムを組み、全学年共通認識のもと、授業を行っている。②運動に親しむ場の提供。朝のマラソンにプラスアルファの運動を加えたり、体育館にアスレチックの道具を設置したり、ミニ綱引きの台などを設置したりした。③10分間サーキット。ただ走るだけでなく、ハードルをとんだり、ネットをくぐったり、ラダーを使ったり等、楽しみながら持久力をアップする工夫をした。

成果としては、運動の楽しさにふれることができた。日常生活では体験できない動きを味わうことが出来た等があった。今後の課題は、持久力を付けるための手立ての工夫である。

## 3 家庭でも出来る体力向上に向けた運動

最後に、中学の黒田、小林両先生による運動の紹介があり参加者みんな楽しく体を動かしました。まず、「無責任ヒーロー体操」で、気分を乗せて、①柔軟体操（UFO、飛行機、足クロス、だるまさん、カエル逆立ち、スカイツリー、足旋回）②倒立や跳び箱につながる動物の模倣運動（片足くまさん、手足ガエル、スーパー手足ガエル）③親子で行う運動（ひっくり返

しゲーム→握力、筋持久力)を行いました。保護者の方にも家でもやってみたくて好評でした。



## 第3分科会 「子育ての悩み 解決に向けて

### ～皆さんで井戸端会議をしましょう～

(保小接続プログラム委員会)

#### 1 開始

「子育ての悩みについて多少でも解決できればいいなと思っています。みなさんで、井戸端会議をしましょう」のはじめの言葉があり開始しました。園長先生が中心になり短時間体をほぐし(認知症対策の体操など)ました。笑い声などが起こり雰囲気は和みました。

#### 2 発表

保小接続プログラム委員会の意義について説明し、4月からこれ(11月)までの年長さんと学校行事との関わりとその時の様子を発表しました。

##### (1)【音楽会】

1年生から招待状を貰い交流が始まる。事前に小学校において練習をする。そして1年生からアドバイスをもらう。その時の様子をビデオや写真を見ながら説明する。年長さんの様子と1年生からの様子を各担任から話してもらう。

〈年長さんにとって〉

- 1年生のアドバイスを受けた時、「かっこよかった。」「うまいとほめられた。」と言われ嬉しかったという感想が出た。また、そのことが自信にもなった。
- 練習に行った際、簡単な学校探検ができ、「和式トイレ」「階段」「図書館」と園にはないものを見たり体験したりしてよかった。
- また、音楽会本番では、一所懸命歌う姿を保護者の方や地域の方に観ていただきお褒めの言葉をたくさんいただいた。そのことも自信につながったようだ。

〈1年生にとって〉

- 年長さんの時、当時の1年生から、アドバイスをもらった。今度は「私たちがアドバイスする番だ」ということで、ちょっぴりお兄さんお姉さんになったような気がしたようだ。自分達の演奏への意欲にも拍車がかかった。年長さんに対しての心の距離が縮まった。

##### (2)【運動会】

年長さん一人ひとりに招待状が送られた。事前に本番と同じ練習をする。1年生が年長さんを支援する。その様子を音楽会と同様に各担任から話してもらう。

〈年長さんにとって〉

- 年長さん一人ひとりに招待状を貰い、運動会に対し嬉しい期待と意欲が生まれた。



- ・音楽会同様に練習日をとることと1年生が見本を見せてくれたことで、子ども達に見通しが生まれ、当日は落ち着いて行動できたり、隊列を整えるためのロープを使わずにできたりした。

〈1年生にとって〉

- ・招待状を書くことで園児と一年生の心の距離がだいぶ縮まった。また、字や作文を学習してきたことが実際に生かされ、学習することの喜びを実感する。
- ・見本となれたり、世話をしたりということが、年上であることの自覚を生んだり、役に立つことの喜びを感じたりすることとなった。

今後まだ2回ほど参加する行事はありますが、行事をていねいにとらえ、ねらいを明確にし実施することで、年長さんにも1年生にも大きな成果が現れてきました。

### 3 井戸端会議

その後2つのグループに分かれ、日頃思っている悩みや子ども達と関わって嬉しかったことなどを付箋に書き、それをもとに話し合い（井戸端会議）を始めました。次のようなことが出され、お茶とクッキーをいただきながら井戸端会議が進められました。

#### 【嬉しく思ったこと】

- ・疲れた表情を見せた時、「疲れているの？大丈夫？」と言われ、ハッとして笑顔を取り戻す。
- ・話を聞けるときはじっくり聞く。
- ・お手伝いをしてくれた時、しっかり褒める。
- ・参観日に行くと知らない一面を見ることができ、成長を感じる。
- ・靴をきちんと揃えられる。手伝いを頑張ってくれる。
- ・上の子に下の子のことを手伝ってもらい、とっても褒める。自分も助かる。
- ・自主的に何かを出来た時、その気持ちを褒める。
- ・私が寝坊したらパンを焼いてくれた。
- ・小学校1年生で始めたバレーボール。3年生になっても続け自信がついていった。
- ・ランドセルを買ったら小学校を楽しみにしている。義民太鼓が人との関わりをつくった。
- ・挨拶大きな声でできたとき。嬉しくなって褒めギュウギュウ抱っこをした。

#### 【気になったり、課題だなと思ったりしていること】

- ・子どもの友達の凄さを褒めて真似させようとするが、本人にとっては、比べられていると感じるらしい
- ・早寝早起きが苦手。
- ・テレビを見ているとき話を聞いてくれない。
- ・行動が遅くていつもイライラしてしまう。
- ・少子化      ・通学不安
- ・父親と母親の育ちの違いから子育てに食い違いが出て、喧嘩になってしまう。
- ・つめかみが多く気になります。
- ・友達に変なあだ名で呼ばれ真に受けて泣いてしまう。

- 学校でも友達同士のトラブル等に親としてどのように対処したらいいのか。
- すぐ叱ってしまう。
- クラスが1つなのか2つなのか心配。キャラが定着してしまう。
- お手伝い自分からしてほしいなあ。どうすれば？
- 身の回りの片付けができない
- 忘れ物が多い。

“そういうことあるある”などと共感したり、“そうすればよかったのか”と参加者から学んだり、和やかな中にも子育てについて考え合った時間となったように思います。



#### 第4分科会

### 「わが子の心に寄り添うために～あなたが大好き～」

(特別支援教育委員会)

#### 1 【講義・演習】その行動には、わけがある（行動分析から）

普段、植田スクールカウンセラー（村教委）がどのような目線で子どもたちを見ているのか、演習も行いながら知って頂きました。

- 行動分析の基本的な考え方は「どんな行動にも意味がある」。
- 全体で考えるテーマとして、「なぜ、私は〇〇を直すことができないのか」「〇〇を直すにはどうすればよいか」としました。例として、遅刻を取り上げ、遅刻するとはどういうことなのかをまず考えました。植田 SC から「遅刻した後のことを考えるのではなく、遅刻が起こる前には何をしているのか、間に合うためにはどうすれば良いのかを考える必要がある」「どのような行動を、どのような順序で行わなければならないのか。逆算して考えていく必要がある」と教えていただきました。
- 参加者にも「自分が直したいこと」を考えていただきました。直したいことは漠然としたものではなく具体的であると良く、また行動の最初のハードルは低い方（0 から 100 ではなく、ちょっとずつ、スモールステップで）が良いそうです
- 実現したい行動は子どもの実態に合わせる必要があるということ学びました。

#### 2 こんなとき、どうする？「子育てあるある」

特支委員による劇を交えながら考えて頂きました。

##### ケース1 「かあさん、構ってくれない」

##### ① イライラバージョン

寸劇より・・・親が構ってくれないと、子どもは邪険にされたと感じ、宿題をやる気がなくなってしまう。

→子ども役になった保護者からは、「そのような対応をされるとつら



いと感じた」と感想が出された。

- このような状況が実際に家庭で起きたときの体験を発表して頂いた。宿題のことを相談されると、「後でね」と言ってしまうが、家事の手伝いを「一緒にやってくれたら早く終わるから、その後見てあげるね」と言ってみたら良かった。

## ② 少しほっとするバージョン

寸劇より・・・子どもは構ってもらって嬉しかった。手伝いもやったことで褒められていい気分になった。



- 参加者からは、イライラバージョンとの違いについて、「否定しないで、『やるからね』という言葉がけが大事」「話を聞いたり、言おうとする姿勢が見える」「全否定ではなく子どもを見てあげようかなという姿勢が見えた」という感想が出された。

## ケース2 「兄弟を比べてしまう母」

### ① 弟と比較して兄を注意してしまう場合

- 兄は、弟との宿題量に不満を感じたり、母親への反抗心を持ったりした。

### ② 兄の考えを聞いてみた場合

- 兄としては、「どういう予定でやるの」と聞かれたのが良かった。自分の気持ちが伝えられた。
- 母も、「あと15分でやるんだ」という兄の返事を聞くと、それなら良いかと思えた。

### ◎まとめ（沓掛教育長）

「その子らしさを大事にする、あなたはあなたのままでいい」ということを教えるのが特別支援教育であり、その考えに近い劇がこの分科会の中でできたのではないかと考えています。特別支援教育の指導主事をしていたとき、発達支援の子どもも多くは「俺なんていないほうがいいんだ」と言っていました。しかし、たった1人だけそういうこと言っていない子どもに出会って自分自身が驚いたことがありました。それはその子の母親がとても温かくいつも抱きしめて育ててあげていたからと聞いて、感動したし、そういう家庭や先生になってほしいとずっと、今も思っています。自尊感情を青木村でやっとテーマにできて嬉しいです。



**編)集)後)記)** あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。本号では昨年行われた「子育てフォーラム」の様子をお伝えいたしました。フォーラム後半の講演会については、次号でお伝えいたします。

